

平成26年度第2回石狩市地場企業等活性化審議会議事録

日 時 平成27年3月19日(木) 15:30～16:30

場 所 石狩市役所3階庁議室

出席者 委 員：北山雀会長、松尾拓也副会長、酒井志津子委員、渡辺百美子委員、
鈴木いずみ委員

企画経済部 部長 加藤龍幸

商工労働観光課 課長 幸田孝仁

商工労働観光課 主幹 小島 工

商工労働観光課 主任 高橋一彦

傍聴者 0名

=====

【幸田課長】

これから平成26年度第2回地場企業等活性化審議会を開催させていただきます。

本日は、川村委員、工藤委員、長谷川委員、有田委員の4名から欠席のご連絡をいただいております。審議会の開催に先立ちまして、企画経済部長の加藤からご挨拶をさせていただきます。

【加藤部長】

皆様お疲れ様です。欠席者が多くて残念ですが、年度末ということもあって大変お忙しい中御参集いただいたことを厚くお礼申し上げます。

私ども石狩ブランドの支援の方策について、市内の産業関係団体また市役所の関係課で組織する産業活性化連携会議で検討を行ってきました。その協議において石狩ブランドの支援についての方策案をとりまとめましたので、本日は事務局の方からその経過をご説明させていただくとともに今後の検討の手法、進め方についてご意見をいただきたいと思います。

今現在、私ども議会中のございまして、来週24日が最終日となっております。予算案を今年は4年に一度の選挙の年のございまして、すべからくの予算ではなく、一部留保している形での予算を計上し、3月3日に開催され、その段階で補正予算を議会に計上して、同日付で議決をいただいております。現在、国の方で「地域住民生活等緊急支援交付金」という制度を創設いたしました。その中には「消費喚起型」というものと「地方創世先行型」というものがあります。私共はその地方消費喚起型でプレミアム付商品券事業、これはほとんどの自治体が行うものですが、総額で5億4千万という発行額のございます。過去に商工会議所が中心になったものが1億1千万くらいかと思うのですが、5倍の総量であるということで、これを契機になんとか地元の商店街により多くの効果がでることを期待しておりまして、今、事前に事業者の皆さんに登録依頼文書を発送しているところであります。

いずれにしても、市内経済の活性化によって、元気で活力のあるまちの実現を目指すために、市内の経済団体また委員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【幸田課長】

それでは、これからの進行を北山会長にお願いいたします。

【北山会長】

年度末ということで何人か欠席されておりますが、これから審議に入りたいと思います。

本日の議題の一つ目が、「石狩ブランドの支援方策について」ということで、資料が2種類ございます。まず、最初に産業活性化連携会議での協議内容について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【小島主幹】

それでは私の方からお手元にお配りしてある資料に基づきまして、ご説明させていただきます。

前回、本年度第1回目の地場企業等活性化審議会を10月2日に開催いたしまして、その後、具体的な石狩ブランドの支援方策について、市内の産業関係団体で構成する産業活性化連携会議で延べ3回にわたりまして協議を重ねてまいりました。

産業活性化連携会議の構成団体ですが、石狩商工会議所、石狩北商工会、一般社団法人石狩観光協会、石狩市農業協同組合、石狩湾漁業協同組合、北石狩農業協同組合の厚田支所及び浜益事業所、これに加えて、私ども石狩市の関係課であります農政課、林業水産課と商工労働観光課というメンバーで検討を重ねて参りました。

まず、10月21日の第1回の産業活性化連携会議におきましては、各団体の取組状況について平成23年度から平成25年度までの状況を各団体からご説明いただきまして、お手元に資料をお配りしておりますけれども、これは前回10月2日の本地場企業等活性化審議会におきましてもこれらの取組状況を項目はご説明させていただいておりますが、項目としまして、石狩商工会議所におきましては新石狩ブランド推奨品の制度事業を行っており、石狩北商工会におきましては平成25年度事業としまして、小規模事業者等地域活力新規事業全国展開支援事業として、調査研究事業として一次産品を使用したレトルトカレーの試作・開発を行ったところであります。

その次の2つですけれども、石狩市地産地消の店認定制度と石狩市6次産業化推進事業、こちらはそれぞれの協議会及び検討会、市の農政課が事務局になっておりますが、地産地消の店は現在市内に、旧石狩市内に31店舗、厚田区に5店舗、浜益区においては7店舗を認定しているところでございます。6次産業化推進事業としましては、商品開発ですとか販売促進・販路開拓にかかる部分の補助を行うという事で、これについては市の方で200万円の予算化をしております。

その次に物産振興事業ですけれども、観光協会の方で全国の百貨店ですとかイベント等への出店、ウェブショップの運営等により石狩の地場産品の販路拡大を図る事業でございます。また、地物市場とれのさとの運営ということで、石狩市農業協同組合がとれのさとの運営を行っております。皆様御存知かと思いますが、場所柄、市内外からかなりのお客様が来ていただける場所でもありまして、23年から25年までの販売実績は順調に上昇してきておりまして、26年度につきましては売り上げが2億円を超えたと伺っております。

また石狩湾漁業協同組合が実施する朝市ですけれども、これは旧石狩市内・厚田区・浜益区それぞれの地区において朝市を実施しております。また北石狩農業協同組合これも厚田区・浜益区におきましては、それぞれ地域の農産物の直売等を行っているということでございます。

それをもとにさらに2回目の活性化連携会議におきましては、それぞれの課題と解決への方向性

ということでご意見をいただいております。

課題につきましては販路拡大が課題であると、また製品の宣伝・PRの部分ということですね。それと商品の安定供給というところですけども、売っていくのにはある程度のロットを確保しなくてはいけないというのがありまして、いきなり売れない物を沢山ロットを作るわけにはいかないということで、その辺のところは事業所が苦慮されているところだというご意見をいただいております。あとは販路拡大ですとか、開発にかかる事業費の確保というところが課題であって、その中でどういうふうにしたら解決していけるかというご意見として、先程言いましたJAが運営しているとのさとを販売の拠点としての活用が考えられるのではないかとというご意見と、ネット販売窓口の一本化という事です。市内の事業所様それぞれネット販売をやられているところもあるんですけれども、なかなか個別の事業者・お店でやっていくのが厳しいという意見があり、取組の中でも観光協会の方で新たに今インターネット販売を立ち上げて、一部商工会議所とも連携してはいるんですけれども、大元のネット販売の窓口があって、そこに商品を提供していけるような仕組みということを考えております。

それとブランド認証制度ですが、商工会議所で今やられておりました新石狩ブランドの認証制度もございますが、認証制度の基準の整理をして一本化でのPRができないかという意見もございます。それに合わせて統一した市のロゴマーク、石狩をPRするようなロゴマークがあればいいというご意見もいただいております。また、どうしても資金、お金の部分が重要になってくるのだなというご意見をいただいております。

それを受けまして、本年2月の第3回目の会議におきましては、ブランド認証制度という事を先程申し上げました商工会議所の新石狩ブランドとの兼ね合いはもちろんあるんですけれども、ブランド認証制度の基準というところを改めて整理していく必要があると思われます。いわゆるブランド認証制度への支援ということももちろんですが、さらにその関係団体の取組、連携会議ですとか市全体でやることと、各事業所でやること、その辺の連携される部分と各々が取り組まれる部分の明確化という事も支援の方策ではないかということで、これらの一連の方策をひとつまとめて仮称ではありますけれども「石狩ブランド推進事業」ということで連携して取り組むことはできないかということで、産業活性化連携会議の支援方策の方向性ということでとりまとめております。産業活性化連携会議の検討状況の説明については以上でございます。

【北山会長】

只今、事務局の方から3回行われた連携会議の内容について説明がありましたが、最後の3回目のところで支援方策のたたき台をつくっていただいたわけですけども、これら含めてご意見・ご質問等あればお願いしたいと思います。

【松尾副会長】

今までの取組状況から今後の部分までご説明をいただきまして、商工会議所で実施している部分については私自身、運営にも少し関わりをもたせていただいたものですから、いろいろ思い出していたのですが、今回いろんなそれぞれ取組をしていたということに対して、連携を深めていってキーコンセプトそういったものを横串を通して動かしていこうかな、ということでないかなと私は思っています。是非これについては進めていただきたいし、進めていかなきゃいけないかなと思います。

なぜ商工会議所の話をしたかという、商工会議所で取組をさせていただいた事業も、商工会議所だけでは石狩のブランドというのは当然作り得ないだろうと、他の産業分野の方々、また行政からもバックアップをいただかないといけないという思いで、元々他の団体さんと中に入っていて連携をさせていただきながら、ここに書いてますけど、農協、漁協、観光協会、行政に加わっていただいた中でスタートを切らせていただいたんですけれども、いろんな経緯があって、そこが連携を深めるというところまでは正直至ってなかったのかなという反省もあります。ここは是非新たに仕切り直しの部分も含めて、いろんな産業分野、行政も含めて連携をして進めていかなければ、石狩ブランドというものを立ち上げていくというところまではなかなか本当に至らないなというのが、今回商工会議所の方の取組で関わらせていただいた自分の実感でもあります。

もうひとつ、何回か申し上げていて重複するかもしれませんが、視察で富良野に行った時、「ふらの」というロゴが町中あちこちにあるんですね。ブランドっていうとどうしてもその地域の産品を加工して6次化をしたりとか、そういったイメージで、それはもちろん大事なところで町のブランドを築いていくというところで、キーになるところだと思っています。ただその「ふらの」というロゴに関しては、例えば車のディーラーがつけていたり、統一で作っているんですね。経済の活性化観点のみならず、まちづくりにもロゴって寄与しているのじゃないかなという気がしています。同じやり方をすぐ石狩でやりましょうとは言いません。ただ、そういう幅広い視点・観点を含めて石狩ブランドという事は考えていく必要があると常々思っておりますので、もしかしたら前回と重複しているかもしれませんが、あえて申し上げたいなと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【北山会長】

ありがとうございます。各団体でいろいろご苦労されてブランドづくりを進めてこられておりますが、大変息の長い事業だと思います。どこの町に行ってもそういうブランドづくりに汗を流しておりますが、石狩市の場合、地域としても規模が大きいので、まとめると言っても非常に難しいことだと思います。また小さい地域の事例でも、ニセコ地域の倶知安町では海外の方々が冬の間住んでいるので、そういった海外の人たちにお土産になるようなものを作ろうということで、ニセコブランドづくりを進めております。ニセコっていう名前だけでもブランド化されているように、当然、石狩っていう名前もブランドになっていて、特に、歴史的なものとしては石狩鍋がありますよね。これは全国どこにいてもブランド名としては通るので、さらにいろんなものと関連して特産品を売っていくことも良いと思います。また、富良野みたいにイメージアップするための方法として、ロゴマークを作ったりしていて、それは市民の方々が同じような認識で進めておりますので、それぞれ勝手に作ってるなというのでは中々成功しないと思います。その辺は今松尾さんがおっしゃったようにきちっとしたコンセプトというか、各団体が同じ認識の下で進めていくというのが非常に大事ななと思いますので、その辺について事務局からご意見がありましたらお願いします。

【小島主幹】

今言われていた富良野のロゴマークの件については、前回の地場企業活性化審議会の中でもご意見として出ていまして、産業活性化審議会の中でもこういう事例があるという事でご紹介をさせていただいております。その中で、市の統一したイメージと言うのでしょうか、「ふらの」というロゴマークが持つイメージの石狩版が何かできないかなというお話は出ていました。

【酒井委員】

商工会のブランド、推奨品のマークは商工会からの品物に対しての特産品、石狩市全体ではないんですね。確かにみなさん個々で一生懸命ブランド作ってやるんだけど、力不足っていうか、やはり市の力といういろいろな人の力を借りないと中途半端に終わって一生懸命やっている人たちの努力が報われないっていうか、そういう意味では一緒になって力をいれて推していくというのが絶対必要なかなと思いますし、市がもう少し力を入れてくれるとなると頑張る人も出てくるのではないかなと思います。中途半端に終わることが多いですし、まとまらないとひとつ大きなものにはならないと思います。石狩観光協会さんのネットに年末加入したんですけど、画面が開けなくて自分の商品の事がわからなくて、売れてるかどうかもうわからないし、電話も何もこないし、これは観光協会さんとしっかりやらないといけないと思っています。

【松尾副会長】

観光協会と商工会議所の商業部会とで一緒になってやっているんですよね。聞いてるところによると、ただ、中々うまく行っていない。

【酒井委員】

だから、市の方で協力してあげれば、もっともっとそれが物を売ろうとする人は店先で売っても売れない時代なんで、ネットに力を入れてネットで全国版で一つでもヒット商品が出ればそのお店は助かる部分もあるわけで、なんとかそこをお願いしたいと思ってますし、私自身もそういう事にどんどんチャレンジしていきたい。

【北山会長】

ネット販売の窓口は今、観光協会ですか？

【幸田課長】

今回、観光協会がネット販売を平成26年度の初めにヤフーを使って立ち上げたことは立ち上げたんですが、作ったばかりでいろんな課題を抱えた状況だったんですが、それは観光協会としても、きちんと整備して使いやすいサイトにしていかなければならないという課題があるまま来ていたのですが、その中で商工会議所からも会員の商品販売のツールとしてという連携のお話をいただいて、観光協会もやりましょうかという事で進んでいき、商工会議所から会員の方に参加しませんかという募集があったと思うんですよね。問題なのは観光協会の方でまだきちんとしたサイトが整備されていないっていうのが、今現在もそうで、それが大変課題になっていまして、その部分は本当に申し訳ないんですが。

今回ここにネットの一本化という、今後の解決しなければならない課題としてあげられています。そういった今、観光協会が一応作ったけど実際使いづらく、もっと改良するところがたくさんある状況ですので、そういったところも改善して、今回の方策が今後検討されていけば、これを使えるのは組織の会員に限らず、オールいしかりで取り組んでいこうという制度をつくりたいので、石狩で商売をされてる方には皆さんに周知をかけて、対象は全事業者という形のものをつくっていきたいと思っていますので、その時は是非申込をしていただきたいと思います。

【鈴木委員】

なかなか使いやすいものになるのに時間がかかっているというのは、人力的なところなんじゃないかな？

【幸田課長】

専門家のアドバイスを聞いて構築していかないと、アクセスのしやすさ、検索のヒットの仕方、そこからの生産者への連絡、商品管理というところまで細かくきちんと構築しないとネット販売はすごく難しいものだと思います。実は今回これには直接ではないんですが、新年度4月から観光担当で石狩ブランド情報発信事業というのを、動画で石狩のブランドを発信していこうと考えています。今までは紙媒体でしか伝えられなかったことを、動画ならではの新鮮さですとか、そういったものをアピールできる動画を1本1分か2分の短い動画を作成してユーチューブにアップをして、どんどん石狩の魅力を発信していこうという事業を構築しようと思ってしまして、500万くらいの予算をかけてきちんとプロのクリエイターに作らせて、その中で例えばユーチューブに寒塩引の動画を作ってアップしたら、ユーチューブの画面から通販サイトにも飛べるし、観光協会、商工会議所にも飛べるそういうきちんとした構築で、通販サイトも整備しなきゃならないという事で、通販サイトもきちんとプロに整備させようということまで500万円の事業費に組み込んで整備したいと思っていますので、今よりはいい通販サイトが出来ると考えております。

【酒井委員】

観光協会とは別ですか？

【幸田課長】

観光協会に委託する形を考えていますが、その形態については委託になるか、こちらからの発注になるかというのはこれからですが、予算は確保しました。

【松尾副会長】

先程オールいしかりという事で、事務局から説明もありましたし、意見も出ていましたけども、結局オールいしかりで取り組んでいくっていう姿勢を作っていくときには、先程の話に戻りますけども、例えば、会議所だけではなかなかやりきれない部分があったり、観光協会さんでも自前でネット販売のシステムを抱えようっていうと、正直なかなかやりきれない部分があると思うんですよね。オールいしかりという体制を作っていくっていうのは、やっぱりそこでキーになっていくのは、なんでもかんでも行政に頼るわけではないですけども、やっぱり行政に旗振っていただかないとダメなところであると思います。ただ個別の事業の中身に関していうと、今ご説明であったようにネット販売を市役所の職員ができるのかっていったら、やっぱり専門家がおられるでしょうし、今後のこのいただいたペーパーの中での検討の中で基準運用ってなっていくと、ブランドの高さ、低さをどの辺で設定するか、手法どうするか、ロゴをどうするかっていう事に関しては、この会の会長である北山先生みたいな、いろんな専門家の方のお知恵をいただかないと難しいところであると思うんですよね。総論、全体の部分と、個別の各論の部分をどうやって組み合わせていくかっていうところにこういう会議を含めて知恵を絞っていく段階に入っていくのかなっていう気がしています。

【北山会長】

方向性は、今言ったようにそれぞれの認識というか、1次産業の方と2次産業の方ではちょっと見方に違いがありますので、これを同じ認識のもとにブランドづくりをすすめるということが良いと思います。統一のロゴマークを作るとか認証制度をどのように結びつけていくか、いろいろな方法がありますので、それはこれから検討していく段階で、この審議会だけでなく、他の組織でも検

討していただくということになると思います。今回は連携会議でたたき台までつくっていただきましたので、今言った審議会の意見も踏まえまして、これから具体的に検討していくということでしょうか？

【委員一同】

はい。

【北山会長】

ありがとうございます。では承認されたという事で、次に検討の方向性について事務局の方から御説明をお願いしたいと思います。

【小島主幹】

いろいろ御意見いただきまして今後の検討の部分のご意見にも入っているかと思うんですが、産業活性化連携会議の中で、平成27年度においてブランド認証制度の審査基準、認定の手法ですとか、統一のロゴマーク等のあり方についての検討を進めてまいりたいと考えております。今、北山会長が言われたように、認証制度とロゴマークの関係性についてというところについても、協議していかなければならないかなと考えております。

また支援内容についてですけど、販路拡大や製造等にかかるどうしても課題に事業費というお話がでていましたので、この部分についてはある程度の資金というか、補助金ですとかお金の部分が必要になってくるのではないかと考えております。

また支援の方策案にもございますように、各団体の連携体制等についても、横の部分のつながりを確固たるものを築いていけるように平成27年度において検討を進めて、予算の部分も絡みますので、平成28年度からの石狩ブランドの支援方策についての運用を目指したいと考えております。

【北山会長】

只今事務局の方からご説明ありましたように、ある程度こういった方向性が示されて只今、今後の検討について進めていくということも決めていただきました。いずれにしても販路開拓は非常に難しいというか、作っては消えてく、作っては消えてくというサイクルの中で、磨けば光るという商品が石狩には沢山あると思うので、そういったものを皆さん方が知恵を絞って探してブラッシュアップして、販路を拓けて行くという方向で進めていければ大変いいだろうなと思います。

事務局の方が説明したように、27年度は、示された方向性を具体的に検討を行い、ある程度具体的な計画をつくって、28年度から運用するという事になると思いますので、皆さん方が各団体に戻って同じ認識で進めていただければと思います。

この制度の位置づけについて、どのように考えていくかということを事務局の方からご説明をお願いします。

【幸田課長】

今回の特定地場産材の振興方策を検討するというのは、第3次石狩市地場企業等活性化計画、これは平成24年から平成28年度のものでですけど、この中で明記されていることでして、この検討を本格的に開始したということで、この目的が「元気で活力のあるまちをつくる」ということでして、今の国の流れでもあります地方創世にもつながることで、地方創世といった考え方の中にもあるんですが、まちと仕事というものを戦略的に作っていこう、創出していこうという国の流れです。その中で私たちも地方版総合戦略を策定していくわけですが、今回の石狩ブランドの推進方策とい

うのはまさにその中の一つだと考えておまして、補正で地方創世の先行事業ということについては予算措置がされたんですが、そこに挙げられたいくつかの事業というのは平成27年度に作成する地方版総合戦略という計画に載せるんですが、今回補正のつかなかった事業についても、地方版総合戦略にこれから5カ年でこういう取り組みをしていくというのを具体的に記入していくので、この、仮称ですが「石狩ブランド推進事業」を地方版総合戦略の方にぜひ加えたいと思っております。地方版総合戦略にこの取組をしていきますという事を謳えば、当然毎年、毎年の成果とかというのを求められて報告が必要になるんですけど、国から一定の支援も受けれる可能性があります。先程資金援助っていう課題がどうしてもでてくるだろうという話もありましたので、そういった国の制度も活用して総合戦略に載せることで、国の金銭的な支援も受けれることになるかもしれないので、国の流れにのって、ぜひ総合戦略に組み込めるような内容の取組にしていきたいと考えております。

最終的には産業振興、雇用の創出という大きな目標があるんですが、そこまで見据えながら第一歩を取り組んでいきたいと考えております。

【北山会長】

ありがとうございます。市としても財政的なものがありますので、国の政策とリンクしながら進めることが効果的だと思いますので、よろしくお願い致します。

以上、今年度の審議会の内容については終わりますけども、最後にもう一度確認ですが、今後の検討するテーマとして資料にありますように、3つのテーマを柱にして来年度以降検討項目として審議していくということをお願いしたいと思います。これで方策についての締めとさせていただきます。今後のスケジュールについて事務局からお願いします。

【小島主幹】

今年度の地場企業等活性化審議会の会議は今回で終了しますが、新年度第1回目の審議会を6月中を目途に開催したいと考えております。

内容は地場企業等活性化計画の中で、それぞれの進捗状況の報告・管理を行うこととしておりますので、報告をさせていただくというのと、引き続き石狩ブランド支援方策についての御意見をいただきたいと思いますと考えております。具体的な検討手法につきましては、引き続き産業活性化連携会議の方でも行うこととしております。

また、委員皆さんの任期が27年7月24日までとなっております。引き続き各産業関係団体に対しまして委員の推薦依頼をさせていただきたいと考えております。次期の2年間の任期期間にはこの計画が24年から28年度までの5カ年なものですから、29年度からは新たな第4次計画を策定しなければならないことから、28年度中はその計画の策定作業がございますので、各産業団体の皆様方にはご協力いただきたいと思いますと思っております。

今回の委員さんの任期と次回のスケジュールはこのような感じです。

【北山会長】

ありがとうございます。只今、事務局の方から今後のスケジュールと検討方法についてご説明があったのですが、そういう事でよろしいでしょうか？

【松尾副会長】

ちょっとよろしいですか？任期のお話と今後のスケジュールのお話をいただいたんですけど、今

期に関しては石狩ブランドというのを中心に進めさせていただいてきて、これは前期からの引き継ぎという部分で第3次の今まさにやっている計画の中で石狩ブランドというものを特定地場産材との関連も含めてきっちりやるぞということでこういうふうに進んでいるのかなと思います。話は戻りますが、我々の審議会というのは地場企業等活性化というお題目をいただいております、元気で活力のあるまちをつくっていくためにやっていこうということだと思っておりますけど、石狩ブランドというものとダイレクトに繋がってこない、例えば工業であるとかいろんな商店街の中でもいろんな業種の方がおられたりとか、飲み屋さんがおられたりとか、そういういろんな小規模な事業者があつて、そういったところがどういうふうに持続的に事業を進めていけるかだとか、新規に創業していけるかだとか色々なことがあると思うんですよね。そういった幅広いところを含めて事業者が地域の中で頑張っていくことによって元気で活力のある街ができていくのかなと思います。そういった幅広の観点というのは具体的な議論今期ではなくて次からの任期の委員さんに議論していただくということになっていくのかなと思うんですけれど、今後地方版総合戦略を考えていただく上でも重要な観点になってくるのかなと思いますので、今回の会議にとっておく間に合わなくなりそうかなと思ったので今発言させていただきました。そういった観点も含めて今後もお願いしたいなと思います。

【北山会長】

次回の開催は、6月中でしたよね。今委員さんの方から話がありましたけど、もっとこう幅広っていうか個々の企業の悩みなり、元気になる方策についても加えていったほうがいいんですか？

【松尾副会長】

今期ここまで進んできていますので、どちらかというとか来期への宿題なのかなと。

【小島主幹】

松尾委員が言われるように、地場企業というところであれば、すべての業種が含まれる計画でございます、その中で今現在は石狩ブランドの振興ということに絞って協議をさせていただいているんですが、もちろん市内全産業の振興というのを目指しているところです。

それと昨年国の方で小規模企業振興基本法というのが制定されまして、それに伴って小規模支援法というののも同時に出来たんですけど、こちらの中では小規模事業者、製造業だと20人以下、卸・小売だと従業員が5人以下という小規模な事業者にこれまで以上に支援体制を整えていきなさいというような趣旨の法律なんですけども、もちろん私共も市内に多数ある小さい事業者さんたちへの支援方策も考えていかなければならないと思っているところで、次回にはその辺もピックアップしていかなければならないのかなと考えております。

【松尾副会長】

昨年、小規模企業基本法ができて、やはり地域の小規模な事業者を大事にしていこうという事だと思っておりますけど、基本的な理念を整理していただいて、個別な何をしていったらいいのかっていうところは、またいろんな知恵を出して考えていくところなのかなと思いますので、お願い致します。

【北山会長】

皆さん、本日は熱心なご意見いただきましてありがとうございました。年度末で忙しいところお集まりいただきまして有意義な審議会でした。今後とも新しい審議会のメンバー方に頑張っていた

だいて、より一層石狩を良くしていただきたいと思います。ありがとうございました。

平成27年 4月28日 議事録確定

石狩市地場企業等活性化審議会

会 長 北 山 雀